

2023年度 トピックス 1

「環境ESD演習I」 フィールドスタディ (イギリス・ロンドン)

現地での活動内容 2023年9月25日(月)～10月3日(火)

- 9月25日(月) ・ 出発(福岡空港→羽田空港→ヒースロー空港(ロンドン))
- 9月26日(火) ・ ピアソンストリート冒険遊び場 視察
- 9月27日(水) ・ ホマートングローブ冒険遊び場 視察
- 9月28日(木) ・ ハックニーマーシュ冒険遊び場 視察
- 9月29日(金) ・ エバーグリーン冒険遊び場 視察
- 9月30日(土) ・ サムフォードグローブ冒険遊び場 視察
- 10月1日(日) ・ 大英博物館周辺エリアのフィールドワーク
- 10月2日(月) ・ 帰国(ヒースロー空港(ロンドン)→羽田空港→福岡空港)



スケジュール

本プログラムは事前学習・現地学習・事後学習の3段階で実施

1. 事前学習

毎週月曜日6限に自主勉強会を実施し、文献調査や調査方法について検討を行いました。また、事前に福岡県内の冒険遊び場で参加者へのアンケート調査及びスタッフへのヒアリング調査を実施し、県内の冒険遊び場の実態を把握しました。

2. 現地学習

2023年9月25日～10月3日

3. 事後学習(報告:2023年10月15日)

ちくし子ども劇場及び子どもの居場所を作ろう会主催「スタッフ養成講座」にて、イギリスの冒険遊び場視察報告を行いました。



スタディツアーについて

今年度の副専攻環境ESDプログラムの演習科目である「環境ESD演習I」では、イギリス・ロンドンへ行き、現地の冒険遊び場について調査しました。冒険遊び場とは、「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、火遊びや木工遊びなど、通常の公園では禁止されているような、危険な遊びも自由に行うことができる遊び場のことです。現地では5つの団体を訪問し、運営するスタッフの方々から遊んでいる子どもたちまで、たくさんの方々と交流することができました。

また、帰国後は国内で冒険遊び場の立ち上げを検討している団体のイベントに出席し、ロンドンの冒険遊び場について学んだ内容を報告しました。



参加学生のコメント

法学部政策科学科 3年 清原 綾華

今回のフィールドスタディでは、イギリス(主にハックニー区)の冒険遊び場を5か所見学しました。冒険遊び場が所在する地域ごとに、子どもを取り巻く環境は異なりますが、全施設に共通していたことは遊び場で関わるスタッフが子どもの意思を尊重し、対等な関係を築いているということです。子どもが自分たちの頭で考え、それを行動に移せる環境が整っており、スタッフの皆さんが子どものやりたいことを叶えようと奮闘される姿にとても衝撃を受けました。特に驚いたのが、子どもたちの知識量です。触ってはいけない雑草や木の実の食べ頃、自然物を使った遊具の作り方など、日頃から自然に触れることが子どもたちの知識吸収につながっているのだと分かりました。また、他者と遊びながら知識を吸収し、新たな遊びに活かす経験を小さい頃から繰り返すことが、子どもの成長に繋がっていることを気付かされました。温かみを感じる木の遊具や時々顔を出す動物たち、皆で成長を見守っている木の実など、自然の中で愛に溢れるスタッフの皆さんと「自由」に遊ぶ様子を胸に打たれ、子どもの教育に関してもっと学んでみたいという気持ちがますます大きくなりました。

法学部法律学科 3年 小松 史穂

私が今回のフィールドスタディで学んだことの中で、最も伝えたいことは「遊びに国境はない」ということです。子どもたちと交流した際、お互いの言葉を完全に理解できませんでした。しかし、ジェスチャーを交えて意思疎通を図り、また日本とイギリスで似た遊びもあったため理解することができ、すぐに打ち解けられました。冒険遊び場の視察では、もうこれ以上歩けないと思うほど遊び、とても楽しめました。子どもたちから遊びを提案された際は、私たちのことを受け入れてくれていると感じ嬉しかったです。また、帰り際には「次はいつ来るの?」と質問される等、見ず知らずの私たちを子どもたちは遊び仲間として捉えてくれました。遊びを通して仲良くなれたことで、遊びが国境なく誰とでも楽しく過ごせることを実感しました。

また私はこのフィールドスタディを通して、子どもの遊び環境に対する支援が、子育て支援につながるということを知り、さまざまな視点から物事を見ることの大切さも学びました。この気づきを将来に活かせるよう意識して行動していきます。

外国語学部国際関係学科 3年 武藤 栄里

今回私たちは5つの冒険遊び場を訪れましたが、その中でも共通してスタッフの子どもたちへの関わり方が印象に残っています。スタッフは基本的に子どもたちの遊びに口出しをせず、子どもたちの自由を尊重していました。また、スタッフは子どもたちと友だちのような距離感で話をしており、このようなスタッフの関わり方が、冒険遊び場が子ども達にとって心地よい環境になっていると感じました。実際に、冒険遊び場に遊びに来ていた子どもたちは、閉園時間を迎えても最後まで残って遊びたがっており、子どもたちにとって大好きな居場所になっているのだなと実感することができました。

今回の海外フィールドスタディを通じて、保護者や先生とは違った形で子どもと関わる大人の存在が、子どもの成長に繋がっていると実感できました。今回の訪問は子どもへの関わり方を考え直す良い機会になったと思います。これらを今後の子どもたちと関わる活動へと活かしていきたいです。